

# NEWSLETTER

編集・発行 日本催眠医学心理学会

No.67 2017.3.31

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1  
パレスサイドビル 9階  
（株）毎日学術フォーラム内 TEL.03-6267-4550

## 新理事長就任のご挨拶

理事長 飯森洋史（飯森クリニック 国際心理社会実存医学研究所）

今秋、新理事長に選出されました。笠井理事長の任期途中での職務放棄の後、繋ぎの労を執っていただいた井上前理事長がご指摘されたように、「生まれ変わりのための本格的な始動は、来年度役員の改選以降に」ということで、今回役員の顔ぶれも一新されました。会員の皆様からも、この学会は一体どうなってしまったのだとの声も聞かれます。今私は、日本を代表する伝統ある本学会の再生と発展のために骨身を惜しまずに改革を推し進めたいと決意しております。ただ、いざ改革を推進しようとするときさまざまな困難が見えてきます。会員の皆様のご理解とご助力を、何卒宜しくお願い申し上げます。

改革の第一は、「事務局委託先の変更」、第二は、「資格制度の改革」、第三は、「研修制度の見直しと充実」、第四は、「事例検討会と研究支援の活性化」、第五は、「学会誌発行の正常化と内容の充実」、第六は、「会員名簿の再発行と財政の健全化」、第七は、「学術大会の充実と参加者の増大」です。どのテーマをみても多くの困難が予想され、改革のためには並々ならぬ努力が必要だと考えられますが、一つ一つ出来るところから順に、「なるほど、変わってきているな」と会員の皆様に感じていただけるように頑張りたいと考えています。

以下に、改革の具体的な内容について列記します。

- ① これまでは、事務局委託先と学会執行部との連携がうまく行かず、機動性に欠けていました。可能な限り早期（予定は2017年春）に事務局委託先を変更し、健全な学会運営がなされるように整備いたします。
- ② 有資格者の多くが学術大会や研修会に参加していないばかりか、実際に催眠を臨床や研究に用いておらず、資格とは名ばかりになっていました。さらに、催眠技能士から認定催眠士に名称が変わってから、認定証すら発行されていません。有資格者の現在の動向を調査した上で、今後の学会活動へのコミットの意思確認を早急に行わなくてはならないと思います。さらに、学会員と学会の双方に利益のある資格制度への改革を目指します。
- ③ 実働できる指導催眠士の数が少なく、研修会講師が固定化しており、マンネリ化の傾向にありました。また、催眠技能の習熟度の評価を行い、クラス分けを厳密にすることで、実習効果が上がるようにしたいと思います。臨床や研究との関連づけが弱く、いわゆる研修会催眠になっている現状を克服するために、実践的な内容としていきたいと思います。毎回行き当たりばったりではなく、数回シリーズで学習できるような計画を立てる、海外から外国人講師を積極的に招聘するなども含めて、年次大会以外にも研修会を開催したいと考えています。
- ④ 近年、事例検討会がほとんど開催されていません。催眠を用いた臨床実践を活性化させるためには欠かすことのできない貴重な研修機会です。是非とも復活させたいと思っています。また、催眠の研究会があってもよいと考えています。多施設同時研究等も催眠の発展には必要です。研究・研究会助成の制度も利用しやすいように改革していきます。
- ⑤ 学会誌の発行の遅れは目に余ります。どんどん内容が風化して行って、はっきり言って白けます。投稿論

文も非常に少なく、それを補うために学術大会におけるシンポジウムや講演を論文化しようとしても、一部の怠慢な会員の所為で実現に至りません。このように、従来は学会の活性化を阻害する要因が多過ぎました。これらを克服して、3年の任期の間に正常化します。

- ⑥名簿が作られなくなり、会員相互の連絡が取り難くなっています。また、会費の納入率を高め、学会の財政の健全化を図ったり、会員相互の情報交換が可能なメーリングリストを作ったりすることによって、学会を活性化します。
- ⑦学術大会は学会の華です。魅力的なテーマが会員の参加意欲を高めます。参加者数の減少を主催者側は真摯に受け止めなくてはならないと思います。また、発表数が少ないことや、発表しようとしても十分な発表時間が確保されていないことも、参加をためらう要因になっていると思います。発表数は学会誌への投稿数と比例します。会員の皆様の積極的な学会参加と研究発表を促進します。

以上、課題は山積みではありますが、歴代理事長である池見西次郎、成瀬悟策、大野清志、斎藤稔正、鶴光代、宮田敬一(敬称略)等の各先生と比較して学会への貢献度では引けを取らないように誠心誠意、改革を推し進める所存です。なお、医師として理事長を拝命したのは、池見西次郎先生以来と思われませんが、日本催眠「医学」心理学会という名称に免じて、しばらくの間、心療内科医である私に改革のための機会を与えていただきたいと思います。疲弊した学会の改革は、私が標榜する全人的医療と似ています。JSHに対して様々な角度から適切にアプローチして、健康な学会に回復させたいと切に願っております。会員の皆様の温かいご支援を賜りたいと思います。

## 研修会のご案内

2017年8月11日(金・祝)～14日(月)

場所：持田製薬ルークホール (東京・四谷)

Wendy Lemke M.S. Licensed Psychologist

<http://www.clearwatercounselingservices.com/>

日本催眠医学心理学会 (JSH) では、米国において積極的に活躍されている若手のホープ Wendy Lemke 先生をお招きして初級・中級研修会を上記の日程で開催することに致しました。先生は、トラウマと解離、自我状態療法等の専門家としても知られていますが、今年は、その優れた臨床経験を基にした初級・中級研修会を開催致します。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。実技練習の際には認定催眠士がファシリテーターとして付きます。通訳付き。学会ホームページのリンクからお申し込みください。米国においてとても人気のある先生なので多数の参加申込みが見込まれます。お早目のお申込みをお勧め致します。

## 催眠医学心理学会第 62 回大会を終えて

第 62 回大会長 阿部真里子  
(阿部真里子臨床心理オフィス)

2016年10月14日～16日に、埼玉県春日部市(かすかべし)の東部地域ふれあい拠点施設ふれあいキューブにて、第62回大会が開催されました。皆様の支援を賜り誠にありがとうございました。「催眠と臨床現場」というテーマのもと、大会を無事に終え、ほっとしています。昨年の大会の時、「お・も・て・な・し」を大事にしたい」とお話ししましたが、いざ、始めてみると、様々なことが生じ、気づくと、あっという間に終わっていました。学会運営に不慣れな為、至らぬ点多々ありましたが、ご容赦の程お願い申し上げます。

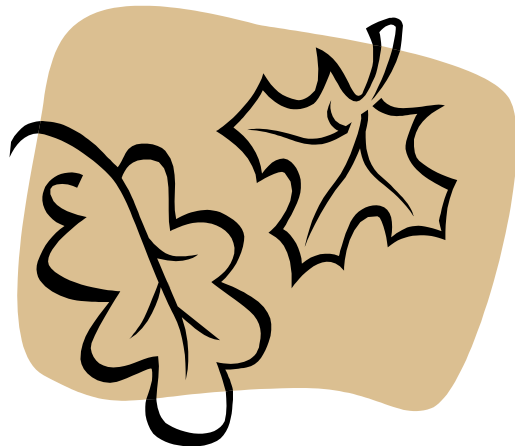
地方都市の私設相談室が大会運営するのはかなり異例のことです。これまでは、大学や病院などの大きな組織での運営がほとんどでした。通常は2年を要するといわれる準備期間もわずか1年でした。日常の相談業務を行いつつ大会準備はきつい面がありました。抄録集を作成・印刷をお願いした印刷業者の方にも短期間での校正や印刷で、大変ご苦勞をおかけしました。しかし、馬を疋一にした美しいデザインの表紙には準備委員会一同とても励まされました。

14日午後～15日午前の技法研修会や、15日午後の大会の口頭発表、九州大学名誉教授田嶋誠一先生の【現実に介入しつつ心に関わるー「体験様式」と「安全弁」の視点からー】のご講演で皆様、学ばれることが多かったのではないのでしょうか。

16日は私も座長の八巻秀先生(やまき心理臨床オフィス)、シンポジストの黒岩貴先生(麻布メンタルクリニック)、川嶋新二先生(大学通り武蔵野催眠クリニック)と一緒にシンポジウム「さまざまな臨床現場における催眠の活用」に、続いて、大会長講演「河野良和先生の語る臨床催眠のエッセンス」では司会の斯波涼介先生(阿部真里子臨床心理オフィス)、服部哲久先生(服部カウンセリングルーム)と共に登壇し、無我夢中でした。河野良和先生ご自身にもそばで見守って頂き、大変心強く思いました。大会プログラム終了後の「市民講座」での、現日本心理臨床学会理事長、元本学会理事長の鶴光代先生のご講演には予想をはるかに超える100名程の大勢の方々が駆けつけ、嬉しく思いました。「催眠」について、「大変分かり易く、面白い内容だった」という評判を頂いています。

本大会では春日部(かすかべ)の「地域振興に役立ちたい」との強い思いで必要な物品を地元で揃えました。3日間のお弁当は地元の「彩花」さんに、お茶は市内に何軒か店舗のある「おづみ園」の社長さんに特別に用意して頂き、壇上や懇親会のテーブルの花も市内の「花勤」さんに注文しました。また、春日部市役所で「クヨンしんちゃんの絵はがきセット」を購入し「お土産」としてお配りしました。

15日夜の懇親会にはまずピアノの演奏で元理事長の齋藤稔正先生に腕をふるって頂きました。震災支援ソング「花は咲く」を全員で合唱。飛び入りでの松原慎先生のガクの演奏もありました。7テストの重信亜衣子さんの美しい歌声を聞き、Spider Tetsuさんの率いるブルースバンドには質の高い演奏をして頂きました。ケータリングの「正直屋」さんの美味しい料理と共に、今流行りの「獺祭」という日本酒や、各種の特別なワイン、ウイスキー、焼酎など、お酒に詳しい方にご用意をお願いしました。デザートには全国的に名を馳せる春日部名産のオーグッド菓子工房のケーキを供させて頂きました。地元の方々を始め、多くの方々の温かいご支援のもと、盛会のうちに幕を閉じた第62回大会へのご参加、誠にありがとうございました。



2016.10.14.～16.

日本催眠医学心理学会第62回大会

## プログラム・抄録集の訂正について（正誤表）

皆様

本学会員、本大会参加者にお配りしたプログラム・抄録集に、下記のように誤りが見つかりましたので、正誤表をお配り致しますので、訂正をお願い致します。

ページ	場所	誤	正
12	16日13:00～	会長	大会長
15	口頭発表1-1	—Emotional Balloon Technique の活用—	— Emotional Balloon Technique の活用—
15	口頭発表1-1	宮田 敬一（元大阪大学教授）	削除
15	口頭発表1-1	狩野かおり（カウンセラー）	削除
16	口頭発表2-4	—潜在連合テストの開発にむけた予備的研究—	—催眠潜在連合テストの開発にむけた予備的研究—
20	下から2行目	川崎 新二	川嶋 新二
28	副題	— Emotional Balloon Technique の活用—	— Emotional Balloon Technique の活用—
28	連名発表者	宮田 敬一（元大阪大学教授）	削除
28	連名発表者	狩野かおり（カウンセラー）	削除

<抄録論文要旨 ヘッダー部の誤りについて>

誤って草稿時のヘッダーを印刷に適用してしまいました。

各ページのヘッダーを、以下のように訂正してください。

ページ	内容	正しいヘッダー
18・19	特別講演	10月15日（土） 16:00 ～ 18:00 ホールA
20～23	シンポジウム	10月16日（日） 9:30 ～ 12:00 ホールA
24～26	大会長講演	10月16日（日） 13:00 ～ 14:00 ホールA
28～31	口頭発表Ⅰ	10月15日（土） 13:05 ～ 14:40 ホールA
32～35	口頭発表Ⅱ	10月15日（土） 13:05 ～ 14:40 ホールC
38・39	市民講座	10月16日（日） 14:30 ～ 16:00 ホールA

この正誤表は、プログラム・抄録集とともに保管してください。

お手数をおかけして申し訳ありません。

以上

日本催眠医学心理学会第62回大会  
大会長 阿部 真里子

## 日本催眠医学心理学会第 62 回大会に参加して

越 拓野  
(立命館大学大学院 文学研究科)

日本催眠医学心理学会第 62 回大会に参加する為に、埼玉県春日部市を初めて訪れました。どこか懐かしい雰囲気のある駅前に降りたら、2年ぶりの学会参加の為に緊張していた私も、スッと力が抜けて楽になりました。

私は、催眠技法研修会中級コースを受講するために、金曜日午後から参加しました。初日は、鶴光代先生が実習を中心に進めて下さいました。催眠下における無意識的活動を体験する為に、両手の接近の観念運動を始めとして、基本的に二人一組で実習を行いました。第 2 セッションでは、松原慎先生のデモンストラーションを拝見し、クライアントのリソースをどのように活用していくのかについてのポイントを、直接見ることでより深く理解することができました。二日目の午前には、松木繁先生が臨床場面における観察の重要性についてご講義下さり、その後、実際に観察をしながらの言葉がけを実習しました。観察しつつ、適切な言葉をタイミングよくかけることがいかに困難なことであるかを実感しました。更に、ある臨床事例に関して、可能な対応についての意見交換をしました。私が持つことになかった視点からの意見が多く発表され視野が広がり、ためになる時間でした。催眠に関するテキストを読むだけでは理解することのできないことや、このような技法研修会でない限り学ぶことのできないことを体験できた、大変有意義な二日間でした。

二日目の午後に、私は口頭発表を行いました。私の発表を多くの方が真剣に聞いて下さり、更に貴重なご意見やご感想を頂くことが出来ました。今後の研究を進める上でのヒントを頂き、更に個人的な研究へのモチベーションも向上しました。

田嶋誠先生の特別講演は、学校現場での教育に関心を抱く私にとって、講演者ご自身の体験から生まれた生きた言葉を聞く貴重な時間となりました。独特のユーモアを交えたお話もあり、楽しい時間が過ぎました。

その後、懇親会が催されました。会場に入ると、まずピアノと大きなスピーカーが目に飛び込んできました。本格的なパーティ会場のような驚き、同時に「これから何が始まるのだろうか?」と期待に胸が膨らみました。新理事長の飯森洋史先生のご挨拶のあと、ピアノの弾き語りが始まりました。続いて、元理事長の斎藤稔正先生のピアノの演奏や、松原慎先生のカリ

の演奏もあり、どちらも素敵でした。後半には、ブルースバンドのパフォーマンスでライブハウスにいるかのような感覚になりました。今大会会長の阿部真理子先生を始め大会スタッフの皆様、更に演奏者の方々が、参加者に楽しんでもらえることを第一に考え、今大会に至るまでいかに力を入れて準備を進められてこられたのかということが、感動とともに伝わってくる懇親会でした。

最後に、今大会を通じて、ご指導下さった諸先生方および大会関係者の方々に心より感謝と御礼を申し上げます。

## 催眠技法研修会(中級コース)に参加して

佐藤隆夫  
(新潟市立太田小学校(教頭))

10月14日、15日の2日間、昨年に引き続き、催眠医学心理学会の技法研修会に参加させて頂きました。昨年は初級コース、今年は中級コースを受講させて頂きました。

私は、小学校の一教員です。従って現場では、臨床催眠は実践することはできません。ただ、教育分野でも教育催眠として行えるものはあります。私と催眠との出会いは、約 20 年前、新潟市の教育相談センターの勤務がきっかけでした。そこで故宮田敬一先生と出会い、臨床催眠の指導を受けました。当時の宮田先生は、ミルトンエリクソンを中心に家族療法からグループセラピーへとその幅を広げていた時期でした。私が催眠にのめり込んだのは、宮田先生の指導を受けながら、中学生の夜尿症の治療を行ってからです。催眠導入にリラクゼーションを活用し、創作昔話をメタファーとして聞かせることで夜尿の改善を図りました。数回のセッションで夜尿の回数が激減した事例でした。その後、乗り物恐怖の女子高校生の事例なども扱いましたが、上手くいきませんでした。その頃がちょうど催眠が面白くなってきた時期でもありました。しかし、残念ながら催眠への想いを残したまま現場復帰となってしまいました。退職を前にもう一度催眠を学びたくなり、初級に続いて中級コースを受講させて頂きました。催眠を行っていた当時は、催眠に誘導することが面白く、ただ闇雲に行っていた感があります。今考えると、非常に怖いことをしていたと反省しています。

今回の中級研修会では、鶴光代先生、松木繁先生のお二人からご指導を受けました。鶴先生からは、集団催眠やピアノによる催眠体験実習を通して誘導技法の指導を受けました。この実習を通し、催眠はミ

コミュニケーションであるということが改めてよく分かりました。自分の催眠体験が誘導に活かされ、ノンバーバルを含めた相互のコミュニケーションによって催眠が進行していく。当たり前のことなのでしょうが、私にはとても新鮮なことのように思えました。

松木先生からは、催眠の心理臨床適用に当たっての見立て計画・配慮等、実習を交えながら実際の臨床催眠の方法の指導を受けました。クライアントに対し、何の為に、何故、催眠を導入するのか、しっかりした見立てを基に治療計画を立てる必要がある。まず、催眠を適用する意味を確立しておくことが臨床催眠の基礎となる。松木先生の話聴き、以前の自分

を反省した次第です。実習の中で教えて頂いた河野式自律訓練法は、簡便なとても良い方法でこれからも活用していこうと思っています。また、温感（弛緩感）を使った全身ボディチェックの相互実習では、クライアントが体感していることのフィードバックが難しく苦労しました。私にとってこの中級研修は、沢山の得るものがあった、とても有意義な研修会となりました。退職後は、相談機関等で催眠臨床を行いたいと考えています。その為にも今後も研鑽を積んでいくことが必要です。お二人の先生並びにお世話になった先生方に感謝申し上げます。



**2016(平成 28)年度 役員選挙結果**

<任期：2016(平成 28)年度総会終了時～2019(平成 31)年度総会終了時>

**1. 理事・監事選挙****(1) 開票**

日時：2016年7月16日(土)9:30 - 12:30  
 場所：立正大学品川キャンパス2号館8階804  
 事務局：田村英恵  
 立会理事：井上忠典、長谷川明弘

到着封書数：96通

有効：79通 無効：17通

(期間外16、内封筒未使用1)

理事投票総数：79通\*3票=237票

有効：230票 無効：3票 白票：4票

監事投票総数79通\*1票=79票

有効：68票 無効：0票 白票：11票

**(2) 理事選挙結果**

福井 義一	17票
飯森 洋史	13票
長谷川明弘	13票
松木 繁	13票
井上 忠典	12票
大谷 洋一	12票
小泉 晋一	11票
鈴木 義也	11票
千葉 健司	11票
斎藤 稔正	9票
鶴 光代	9票
松原 慎	9票
笠井 仁	8票
福原 浩之	8票

加納 友子 7票(抽選)

次点1 森山 敏文 7票(抽選)

次点2 阿部真里子 7票(抽選)

**(3) 監事選挙結果**

窪田 文子 16票

鈴木 常元 4票(抽選)

次点 仁木 啓介 4票(抽選)

**2. 理事長選挙****(1) 開票**

日時：2016年8月28日(日)13:30 - 15:30  
 場所：立正大学品川キャンパス2号館9階901  
 事務局：田村英恵  
 立会理事：井上忠典、長谷川明弘

到着封書数：15通

有効：15通 無効：0通

投票総数：15通\*1票=15票

有効：15票 無効：0票 白票：0票

**(2) 理事長選挙結果**

飯森 洋史 10票

次点 井上 忠典 5票

**3. 常任理事選挙****(1) 開票**

日時：2016年9月24日(土)10:30 - 11:30  
 場所：立正大学品川キャンパス2号館8階804  
 事務局：田村英恵  
 立会理事：井上忠典、長谷川明弘

到着封書数：15通

有効：15通 無効：0通

投票総数：15通\*3票=45票

有効：45票 無効：0票 白票：0票

**(2) 常任理事選挙結果**

小泉 晋一 6票

鈴木 義也 6票

長谷川明弘 6票

福井 義一 6票

松木 繁 6票

松原 慎 5票(抽選)

次点 井上 忠典 5票(抽選)

